

大阪の福祉を知るみんなの情報誌

ウェルおおさか

vol.144 2023年6月号
隔月発行(偶数月1日)

特集

多文化共生

～シニアと外国人のシェアハウス～

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内



特集

多文化共生

～シニアと外国人のシェアハウス～



近年、国際化が進み、異なる文化や価値観を持つ人々とともに過ごす機会が増えていくなか、地域社会においても、多文化共生が求められるようになってきました。とりわけ、高齢化が進むにつれ、わが国の介護現場では、外国人の人材が不可欠となっています。介護人材をはじめ、日本に住む外国人が、日本で安定して就労し、生活していくためには、雇用や労働環境、医療や社会保障、居住の安定確保、コミュニケーションなど、多岐にわたる取り組みが必要です。

今回は、人生100年時代の日本社会において、ますます必要とされる外国人材と、柔軟な感性を持つアクティブシニア世代がともに暮らす「シェアハウス」を通じて、地域社会における多文化共生について考えてみたいと思います。

求められる多文化共生

多文化共生とは、国籍や民族の異なる人々が互いの文化の違いを認めあい、対等な関係を築き、地域社会の構成員として、ともに生きていくことです。国境を越えた人の移動が著しくなっている昨今、日本における多文化共生の現状を理解し、意識を高めていくことは一層重要となるでしょう。

しかし、地域社会において、多様な文化、言語、国籍を持つ人々が、住居の賃貸をはじめ、適切なサポートを受けられる環境が十分に整備されているとはいえません。医療・保健・福祉サービスの提

供においても、外国人住民の生活課題は見えにくく、地域福祉の主体としても、十分に考慮されていない現状があります。

ほどよい距離感、仲間をつくりやすい

一方、空き家問題が深刻化するなか、空き家を抱えるオーナーはシェアハウスという運営形態で、住民として外国人を募集するケースが増えています。

シェアハウスの魅力は、入居者同士が共同生活を通して距離が縮まり、仲間をつくりやすい環境が整っていることです。普段は、それぞれ好きな時間に自分で食事を作って食べるなど、プライベート

トを尊重しながら、気が向いたら共有スペースでみんなと話したりすることができます。「誰かがそばにいてくれると安心」「程よい距離感でいられる」「費用面の負担が少ない」などが人気の理由のようです。

地域のなかのシェアハウス

人生100年時代の日本社会では、2040年まで高齢者人口が増えていく一方、高齢者を支える世代の人口は減っていきます。とりわけ介護現場においては外国人材が欠かせなくなるため、今後は、ますます多文化への理解と、地域社会とのつながりが求められるでしょう。

シェアハウスの入居者と地域住民の交流する機会が、今後地域社会とシェアハウスが協力して多文化共生社会の実現に向けた取り組みに発展していくことが期待されます。

次ページは、一人暮らしの高齢者と日本で働く外国人が住む女性専用シェアハウス「コモンルール」について、その目的や現状、可能性をみていきます。



「シェア暮らし」で共生のロールモデルを

有限会社西都ハウジング 松尾 重信さん

空き家となった文化住宅をシェアハウスに

コモンフルールは、60歳以上の“おひとり様”と日本で働くアジアの外国人が、それぞれの強みを活かし弱みを補いながら、地域社会から孤立することなく、新たな暮らしを創っていくための女性専用シェアハウスです。築約60年の木造2階建てアパートを改装したシェアハウスの1階には、60歳以上で一人暮らしの日本人女性が3名、2階には、インドネシア、韓国、中国などから仕事や留学のために来日した外国人女性が6名、住んでいます。

コモンフルールを企画・運営しているのは、市内で不動産仲介・空き家活用、老人ホーム紹介業などを手掛ける西都ハウジングの松尾重信さん。コモンフルールが誕生したのは、2019年に「空き家となった文化住宅を活用する方法はないか」という相談が持ち掛けられたことがきっかけでした。

高齢者・外国人の住まいの課題を同時に解決

まず、松尾さんの頭に浮かんだのが、高齢者の住居問題です。



▲「コモンフルール」の外観

「賃貸オーナーは、孤独死や家賃滞納などのリスクを考え、単身の高齢者には物件を貸し渋る傾向があります。2018年の大型台風の際は、単身高齢者は被害を受けたアパートから住み替えたくても、転居先が見つげにくく、お役に立てませんでした。シェアハウスならそのリスクも解消されるのではと考えました」

もうひとつは、日本で介護を学ぶ外国人の住居問題です。

「機会があってカンボジアの介護福祉士養成学校を視察したとき、今後、ますます必要とされる外国人介護職の人たちが安心して日本に暮らせる住環境をつくりたいと思いました。外国人が賃貸を借りることは、保証人、初期費用などの問題がありハードルが高いのです」

松尾さんは、空き家の有効利用を考える上で、高齢者・外国人の住まいの課題が結び付き、課題を解決できるシェアハウスというアイデアが生まれました。

弱者救済ではなく新しい暮らし方を提案

「コモンフルールは、入居者だけでなく、時には地域の人にも活用してほしい」、松尾さんのアイデアは膨らんでいきました。

例えば、“孤食”を防ぐ子ども食堂や、外国人が故郷の料理をふるまう『アジアンキッチン』などを共有スペースで開催することで、地域交流の場になればいいと考えていたそうです。そのような場所には、どんな人たちがなじむのでしょうか。



「当初、75歳以上の後期高齢者と外国人介護福祉士の居住者を想定していましたが、このような暮らし方を後期高齢者の方が共感してくださるのか疑問を持っていました。そこで住居者の年齢を下げ、60代のアクティブシニアを入居の対象として、住宅弱者を救うためではなく、シェアハウスを通じて新たな暮らし方のロールモデルをつくろうと方針を軌道修正しました」

イベントでつながる地域住民と入居者

2021年6月にコモンフルールを開設。その年の12月にコモンフルールが地域との交流の場として初のイベント、クリスマス会を開き、福祉ネイリストを目指す女性2名によるネイルとハンドマッサージを提供しました。コモンフルールの共有スペースには、住吉区社協を通じて地域住民が20~30人集まり、大盛況でした。

当時、シニアの入居者のFさんはこのイベントをきっかけに地域とつながりを持ち、のちにボランティア活動を始めました。さらに、Fさんは、シェアハウスに住んでいる外国人のNさんを地域の餅つきや子ども食堂に誘いました。そのことがきっかけで、活動先で出会った、日本に住む他の外国人の方とつながったそうです。

「日本では介護をはじめ、人材不足で外国人人材の需要は増えています。働く場、生活の場として外国人に日本を選んでもらうためには人間関係も含めて

『日本に来て良かった』と思える環境づくりに取り組む必要があると考えています。日常生活の中で地域住民と外国人が出会い、共に理解し合い、助け合える存在になることが地域共生社会の実現につながります。

ゆるやかな見守りと文化交流

2021年より入居者を募集開始したものの、コロナ禍で部屋は全部埋まらず、昨年秋の水際対策の緩和から問い合わせが増え、コモンフルールは今年4月でようやく満室になりました。

コモンフルールの1日は、午前中、外国人が日本語学校に通学するところから始まります。外国人は昼頃にいったん帰宅し、くつろいでから夕方になるとアルバイトにでかけます。シニアは、仕事をしている人もいれば、趣味や地域活動を楽しんでいる人、それぞれ自由に過ごしています。

タイミングが合えば、入居者同士で文化交流を楽しんでいます。

「(シニアの人と)時々一緒にご飯をつくって食べています。正月には、お好み焼きをつくって食べました。(宗教上)豚肉が食べられないので、代わりにコーンをいれてくれました」とインドネシア人のNさん。一方、シニアのTさんは「お菓子をあげたら、インドネシアの濃いコーヒーをいれてくれました。全然違う味で驚きました」

入居者同士で毎日欠かせないこと

は、外国人が通学・通勤する時の「いってらっしゃい」と帰宅時の「おかえり」。在否がわかる玄関のホワイトボードで全員帰宅したことを確認し、1日の終わりにはシニアの人がそっと電気を消す気づかいもされています。

地域の情報を伝えることも手助けのひとつ

異国に住むと些細な問題でストレスになることが少なくありません。

「よく問題になるのは、ゴミ出しです。分別の仕方、捨てる曜日・時間が決まっている日本の習慣はわかりにくく、彼女たちはYouTubeで勉強してきているようです」と松尾さん。

家事の役割分担も、1階のシニアの人は自然に決まりますが、2階の外国人は、多国籍ということもあり習慣等のがいなどのため、なかなか決まりません。そこで相談しながら、掃除やごみ出し当番表をつくりました。

このほか、シニアの人が外国人に、地域の情報を伝えることで、外国人の生活を支えていることもあります。「リュックが壊れたときに、地元のスーパー内にあるバッグ修理店を紹介してあげました。助けてあげられてよかった」こうした支え合いが絆を深めています。

物音が安心感につながる

シニアのTさんは外国人の入居者を「子どもみたいな存在。年齢的には孫ですが(笑)」と話します。そのせいか「2階

で物音がしても、むしろ、安心感がある」とTさん。

これについて松尾さんは「プライバシーを追求し、一人の空間を大事にしすぎた結果、人の顔がみえにくくなった。少しの音でも腹が立ったり、ギスギスした空気になったりするのは、そのせいではないかと思います」

松尾さんも、週1回、コモンフルールを訪れ、「仕事はどう?」「生活はしにくくない?」とコミュニケーションを図っています。

「外国人であれ、シニアであれ、顔の見える関係があれば、部屋を貸すうえで連帯保証人がいなくても特に不安は感じることはありません」と話します。

押しつけがましくない相互扶助をめざして

本格的に多文化共生の暮らしが始まって2カ月。松尾さんに、これからのことを伺いました。

「コモンフルールは、地域福祉の場、異文化交流の場、外国人のネットワークの拠点など、さまざまな可能性を秘めている存在だと自負しています。多文化共生のロールモデルづくりを進めていくにあたって注意したいのは、ひとりよがりにならないこと。居住者の価値観を尊重し、住吉区社協さんとともに地域のニーズとのマッチングを考えながら、押しつけがましさのないご近所づきあい、自然体の相互扶助を実現したいですね」



▲「コモンフルール」の内装



▲一緒に食事をするシニアの入居者



▲外国人の入居者

多文化共生の視点を 地域福祉にとりいれたい

元住吉区社会福祉協議会
生活支援コーディネーター 中西 美賀さん

外国人研修生と住民が 一緒に地域を盛り上げる

住吉区社協では、同区で海外人材育成事業を行うAOTS関西研修センターと協働で「海外研修生と遊ぼう!」という交流イベントを毎年開いています。研修生とは、フィリピンやインドネシアなど、アジア諸国を中心に日本へ技術を学びに来ている人たちで、コロナ禍以前は地域住民を含め毎回100名以上の方が参加していました。けん玉や皿回し体験などの日本と研修生の国の遊びや歌を通じて、参加者同士「どこの国からきたの?」「何を勉強してきたの?」といったコミュニケーションを図り、お互いの国の文化や習慣を理解するきっかけとなっています。

私自身は、生活支援コーディネーターとして、主に地域で暮らす高齢者の方々の健康づくりや助け合いの具体的な活動や仕組みの充実に向けて考えていましたが、多文化共生は少し遠い話のように感じていました。ところが、コモフレールの松尾さんから、高齢女性と外国人女性がともに住まいをシェアし、強みと弱みを補いながら新たな暮らしをつくっていくというお話を聞いて、その斬新なアイデアに驚きました。

シニア女性と外国人が暮らす 場所だと知ってもらえた

松尾さんから、住居確保の支援だけでなく、地域交流の一拠点としての役割もめざしたいといわれ、何かお役に立てないかと考えていました。

コロナ禍で高齢者の体力低下や意欲低下を感じていたなかで、2021年12

月、コモフレールの共有スペースをお借りして、地域の方にもご参加いただけるクリスマスイベントとして、ネイルとハンドマッサージを行いました。

コロナ禍が長びき、こんな暮らしを続けていけば、いずれ高齢者の体力が落ちて、フレイル(筋肉虚弱)を起こしてしまうという危機感を感じただけに、イベントの参加者から「気持ちが明るくなった」「せっかくだから、お出かけしよう」と元気な声が聴かれたときは、やってよかったと心から思いました。

また、ご近所さんは「(建物が何か)気になっていたから、中に入れてよかった」「コロナになって初めて外出したけど、近くやからこれた」とおっしゃっていて、日本で働く外国人が住むシェアハウスの建物を身近に感じていただくと同時に、地域住民同士の交流のきっかけになる有意義なイベントでした。

キーパーソンとのつながり 活動がひろがっていく

また、このイベントでは、地域活動に関心があったコモフレールの入居者を地域の福祉活動を行うキーパーソンにつなぐことができました。数カ月後、地域住民の交流や健康増進を図ることを目的とした「高齢者食事サービス」が再開したときに、その方に、手伝ってもらえることができたのは、このイベントでの出会いがあったからこそです。その後入居者の方は、百歳体操やこども食堂でもボランティアとして活躍されています。

コモフレールの松尾さんには、区のボランティア・市民活動

センターの運営委員会やより良いまちづくりのためにアイデア出しを行う場「まちづくり交流ライブ」にも参加してもらっています。

松尾さんからは、コロナ禍の影響で「入居者が決まらず、地域の居場所として開くわけにもいかない。もやもやしている現状を打破するためにも、地域のニーズを聴かせてほしい、ニーズに応えられるような活動につなげていきたい」と相談を受けたことがあります。

コモフレール開設前からコロナ禍を経て現在まで、何度も話し合いの場を持っています。このようにともに考えていく過程が非常に大切で、貴重なものだと感じています。

外国人高齢者への支援も 視野にいれた取組み

コモフレールは、これまでにない個性的な社会資源のひとつです。多様化するさまざまなニーズに応えることができるよう、松尾さんはじめ、多様な主体とともに社会資源の創出に向けて考えていきたいと思っています。

以前、外国人の高齢者が出かけられるところがないかという相談を受けたことがあります。これから、外国人の高齢者は増えていくでしょう。その人たちが安全、安心で自分らしく過ごすためには、今ある社会資源だけでは足りないかもしれません。多文化共生を実現するために、どんな地域社会をつくることができるのか、住吉区社協としても取組みを検討していきたいと思っています。



▲クリスマスイベントで行ったネイルとハンドマッサージ

講座案内

研修につきましては、
次の措置を講じたうえで
実施する予定です。

- 空調設備により常時換気を実施しています。
- 休憩時間等には換気をすることがあります。
- マスクの着用については、個人の判断に委ねますが、福祉・介護関係者の参加も多いため研修中はマスクを着用することを推奨します。
- 消毒液を常備し、手に触れる箇所の消毒に努めています。

●市民向け講座

市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
介護実習講座 (入門コース)	水曜日コース 7月5日・12日・ 19日 10:00～12:00	大阪市内に在住・在勤・ 在学の方で、高齢者の介 護に関心があり、指定さ れた日程を休まず受講 できる方 ※現在介護のお仕事を されている方は、ご受 講いただけません	専門学校講師・介護福 祉士など	初めて介護される方を対象に、家庭で の介護の知識や技術を体験いただい て、介護への関心や理解を深めます。 【テーマ】 ①移動、車いすの使い方 ②着脱介助 ③清潔介護	定員:20人(先着順) 受講料:500円 (貸料代) 受講当日に現金で 申し受けます
介護実習講座 (ステップアップコース)	8月15日(火)・ 19日(土)・22日 (火)・26日(土)・ 29日(火) 10:00～13:00	入門コースを修了され、 かつ大阪市内に在住・在 勤・在学の方	一般社団法人 幸せ介 護創造ファクトリー 代表理事 高山彰彦	入門コースを修了された方がテーマご とに介護の知識・技術を深めるための コースです。受講するテーマは複数選 択ができます 【テーマ】 ①8月15日(火)移動①/移乗 ②8月19日(土)食事介助/自助具の使 い方 ③8月22日(火)移動②/ベッド上の介 助(ポジショニングを含む) ④8月26日(土)排泄、着脱介助/衣服 交換 ⑤8月29日(火)移動③/車いす操作・ 歩行(シーティング含む)	定員:各テーマ20人 (先着順) 受講料:1テーマに つき100円(資料代) 受講当日に現金で 申し受けます

●福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
ファシリテーション 研修	7月4日(火) 10:00～16:30	大阪市内の福祉施設・事 業所に勤務する職員	フェリアン 副所長 津村 薫	非効率で成果のない会議を改善する ため、場を活性化し、メンバーそれぞ れの持ち味を活かすファシリテーショ ンの技術について学びます。	定員:54人 締切:6月13日(火) 受講料:3,000円
社会福祉施設職員の 地域福祉実践講座	7月5日(水)・ 9月15日(金)・ 2月9日(金) 10:00～17:00	●大阪市内の福祉施設・事 業所に勤務し、地域福祉 実践への意欲がある方 ●市区社会福祉協議会職 員	ふくしと教育の 実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広	社会福祉法人・福祉施設が持つ専門 性や経験、社協が持つ地域の幅広い ネットワーク等、それぞれの強みを生 かし、連携・協働しながら地域づくりを すすめていくことを学びます。(ゼミ ナール形式)	定員:10人 締切:6月14日(水) 受講料:9,000円
福祉職員キャリアパス 対応生涯研修課程 (管理職員コース)	8月1日(火)・ 8日(火) 9:30～17:00	大阪市内の福祉施設・事 業所に勤務する管理職 員、もしくは将来その役 割を担うと想定される職 員	ふくしと教育の 実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 関西福祉科学大学 学長 津田 耕一	管理者として求められる役割やリー ダーシップを醸成しキャリアアップの 方向を学びます。	定員:24人 締切:6月20日(火) 受講料:6,000円+ テキスト代1000円
福祉職員キャリアパス 対応生涯研修課程 (初任者コース)	8月15日(火)・ 9月14日(木)・ 19日(火) 10:00～17:00	大阪市内の福祉施設・事 業所に勤務する新卒入職 後3年以内の職員、もし くは他業界から福祉現場へ 入職後3年以内の職員	関西福祉科学大学 教授 橋本 有理子 大和大学 白鳳短期大学部 講師 西川 友理	チームの一員としての基本を習得し て、福祉職員のキャリアパスの方向性 を学びます。	定員:36人 締切:6月27日(火) 受講料:9,000円+ テキスト代1000円
社会福祉の基本と 対人援助 (初級編)	8月18日(金)・ 9月15日(金) 10:00～16:30	大阪市内の福祉施設・事 業所に勤務する職員	同志社大学社会学部 教授 小山 隆	「社会福祉の基本的視点」「福祉職と しての専門性」「対人援助にあたって大 切にしたいこと」について、講義と演習 を通して学びます。	定員:36人 締切:8月4日(金) 受講料:6000円

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
〔福祉従事者研修(基本研修)〕 包括的な相談支援・コミュニティソーシャルワーク実践講座	8月28日(月)・ 9月11日(月)・ 10月23日(月)・ 11月20日(月)・ 12月18日(月) いずれも13:30 ~16:30	大阪市内24区社会福祉協議会、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、福祉関係事業所等の福祉専門職	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授 松端 克文	地域を基盤としたソーシャルワークの実践を目指し、“暮らしをまもる”個別支援機能と“つながりをつくる”地域支援機能を連携させた地域福祉推進の方法論とその技術を学びます。	定員:36人 締切:8月4日(金) 受講料:7,500円
〔福祉従事者研修(専門研修)〕 発達障がいの理解と対応	6月28日(水) 13:30~16:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する職員	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所 嘱託研究員 石川 道子	一人ひとりの適切な支援につなげるために、子どもの発達障がいの特性や、特性に応じた対応について具体的に学びます	定員:36人 締切:6月12日(月) 受講料:1,500円
〔福祉従事者研修(専門研修)〕 介護職員研修 「利用者に寄り添う 看取りと尊厳とは」	7月11日(火) 13:30~17:00	大阪市内の福祉施設・事業所で介護に従事する職員	浄土宗願生寺 住職 大河内 大博	利用者の思いに寄り添うことの重要性や常に身近にある看取りに対する心構えについて実践的に学びます。	定員:36人 締切:6月20日(火) 受講料:1,500円
〔福祉従事者研修(専門研修)〕 障がい者グループ ホーム研修	7月14日(金) 14:00~16:00	大阪市内の障がい者グループホームに従事するサービス管理責任者・世話人・生活支援員など	大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 准教授 三田 優子	サービス管理者やグループホーム世話人などの役割について確認するとともに、今後の支援のあり方について考えます。	定員:36人 締切:6月23日(金) 受講料:1,500円
〔福祉人材確保支援研修〕 求人力・広報力 向上研修	6月28日(水) 13:30~16:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する職員	大阪城南女子短期大学 現代生活学科 教授 前田 崇博	採用実績をあげている事例を参考に、勤務する施設・事業所の強みや弱みを分析し、求職者を惹きつける情報提供や発信の方法について学びます。	定員:30人 締切:6月16日(金) 受講料:無料

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

●福祉従事者向け研修の申込み方法▶当センターのホームページから申込み、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

[大阪社会福祉研修・情報センター](https://www.wel-osaka.com) 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
 ☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272 🌐<https://www.wel-osaka.com> ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

福祉・介護のお仕事をされている方へ

福祉・介護のお仕事の やりがいや魅力を伝える エピソード募集!

みおつくし福祉・介護の仕事
きらめき大賞 2023

募集内容 福祉・介護の現場における利用者やその家族等との関わり、職員同士の連携など、福祉・介護の仕事の魅力が伝わるエピソード

募集期間 令和5年5月15日(月)~7月10日(日)

応募資格 高齢者、障がい児・者を支援する施設・事業所または児童入所施設において、利用者支援を行う(行っていた)職員


応募方法 所定の応募用紙(ホームページからダウンロード)に必要事項を記入し、メールまたは郵送にて提出してください。

応募されたエピソードの中から優秀事例を表彰し、福祉・介護の仕事のイメージアップに活用する予定です。

OSAKA CITY
大阪市 × Anima 大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校

本イラストは、きらめき大賞の受賞作品をもとに、大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校の生徒さんにより制作されたものです

募集に関する詳細は、大阪市ホームページをご覧ください。
<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000592385.html>




お知らせ

令和5年度 社会福祉講演会(第1回)

『福祉の今を知る!』大阪市内の福祉活動の実践報告会
~同心会社会福祉研究奨励賞・努力賞受賞論文より~

昨年12月に発行された研究誌「大阪市社会福祉研究」第45号に掲載され、研究奨励賞等を受賞した研究論文についての実践報告と記念講演会を開催します。この講演会は、実践から今の福祉について考え、これからの福祉をどう担っていくのか、明日からの実践に活かしていただくことを目的としています。

日時 / 7月20日(木) 13:30~16:10(予定)
場所 / 大阪市社会福祉研修・情報センター 5階 大会議室
内容・講師 /
【基調講演】
 ●「伴走型支援とは何か?『ひとりにしない』希望のまちをつくる」
 NPO法人 抱樸 理事長 奥田 知志
【実践報告】
 ●国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 教授
 大阪市立大学 名誉教授 白澤 政和(コーディネーター)
 ●「大阪市社会福祉研究」研究奨励賞等 受賞者の方
対象者 / 社会福祉関係事業所に勤務する方、大阪市内在住・在勤・在学の方約50人(応募者多数の場合は、抽選)
申込 / FAX・郵送・ホームページで受付
締切 / 7月5日(水)(受講決定通知書については、郵送にて通知)
主催・申込・問合せ先 /
 大阪市社会福祉研修・情報センター
 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
 ☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272
 ✉kensyu@shakyo-osaka.jp
 🌐<https://www.wel-osaka.com>



新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは？

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

2年間の大阪市モデル事業を経て、昨年度から本格実施となった「アシスタントワーカー導入等による福祉・介護人材支援事業」

今年度も新たに3施設が、大阪市独自のカリキュラムで、アシスタントワーカーの導入に向けて、取り組んでいきます。

この事業では、専門のアドバイザーによる集合研修や個別支援を受けながら「なぜアシスタントワーカーを導入するのか?」という目的を明確にした後、現在介護職員がおこなっているさまざまな業務を洗い出し、見直しと整理を行います。時間を確保して、日々の業務を改めて見直す取り組みについては「人材育成、教育面において幅広く活用ができています」「良い機会になった、取り組んで良かった」と、毎年とても好評です。

事業に参加される施設によって、目指す施設の姿や、掲げる目標はさまざまかと思いますが、集合研修や個別支援を通じて、より良い職場づくりになるよう一緒に取り組んでいきましょう。1年間よろしくお願いいたします。



▲写真は令和4年度の集合研修の様子です

令和5年度 アシスタントワーカー導入取り組み施設

社会福祉法人 大阪自彊館

特別養護老人ホーム ジュネス

〒533-0023
大阪市東淀川区
東淡路1-4-49
メゾン リバールテ
☎06-6325-3336



社会福祉法人 たらちね事業会

特別養護老人ホーム ファミリー

〒538-0032
大阪市鶴見区
安田2-1-27
☎06-6915-1717



社会福祉法人 日本ヘンケラー財団

特別養護老人ホーム ミネルヴァあべの

〒545-0011
大阪市阿倍野区
昭和町3-4-27
☎06-6629-1110



図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報

図書紹介

これならわかる (スッキリ図解) 運営指導 介護事業

小濱 道博 著 翔泳社 2023年

2022年4月に実地指導から変更された「運営指導」。オンラインによる指導も解禁されたことで、指導件数が増加すると見込まれている。そんな運営指導の準備と対策法について具体例を挙げながら詳しく解説した一冊。



居宅サービス計画ガイドラインVer.3 地域共生社会の実現に向けてのケアプラン作成

全国社会福祉協議会 編
全国社会福祉協議会 2023年

要介護者本人だけでなく、家族介護者を含む家族全体を捉えた支援をすすめていくためのケアマネジメントが可能となるように改訂。時代に応えるケアマネジャー必読の一冊。



発達障害・グレーゾーンの子がグーンと伸びた 声かけ・接し方大全 イライラ・不安・パニックを 減らす100のスキル (こころライブラリー)

小嶋 悠紀 ほか 著
講談社 2023年

イライラ、パニック、暴言・暴力など、解決の難しい問題にも効果あり。教えたいことが確実に届く!子どもが変わる!成長する!特別支援教育のエキスパートが送る「支援スキルの大全集」。



一番大切なのに誰も教えてくれない メンタルマネジメント大全

ジュリー・スミス 著
河出書房新社 2023年

日々のメンタルを整える簡単で実用的な方法を網羅し、気分の落ち込み、不安、ストレス、自信喪失、モチベーションの欠如などを乗り越えるのに役立つ、心理学者・臨床心理士によるセルフケアガイド。



DVD紹介

高齢者虐待防止研修用DVD 虐待を防止する施設環境のために、 互いを尊重しあうかかわり方を考える

シルバーチャンネル 2023年

介護現場で起こりがちなケア場面をロールプレイで振り返りながら、虐待防止や身体拘束廃止について考えるDVD。

① 経管栄養のチューブを触ってミトンの手袋となったご利用者のケース 25分

1. ロールプレイと振り返り(16分)
2. かかわり方のポイント(9分)

② 定時のトイレ誘導で介護を拒否したご利用者のケース 23分

1. ロールプレイと振り返り(14分)
2. かかわり方のポイント(9分)



ケアニン ころろに咲く花

ライブラリーコンテンツサービス 101分
2022年

介護現場の現実を描いた「ケアニン あなたでよかった」の続編。介護福祉士の大森圭はケアニンの仕事を追求するため、小規模施設から大型の特別養護老人ホームに転職したが、効率やリスク管理を優先する運営方針に戸惑いを隠さないでいた。



前科者

バップ 133分 2022年

罪を犯した前科者たちの更生、社会復帰を目指して奮闘する保護司の姿を描いた社会派ヒューマンドラマ。保護司を始めて3年の阿川佳代は仕事にやりがいを感じ、様々な前科者のために奔走する日々を送っていた。



図書・資料閲覧室の開館時間を延長しています!

毎週金曜日の開館時間を午後7時まで延長しています。ぜひご利用ください!

大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・ビデオなどを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)



● 図書・約18,700冊 ● DVD・約1,000本 ● 雑誌・約25種類

開室時間/月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00、金曜日 9:30～19:00

貸出期間/2週間(図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで)

利用資格/貸出し期間(2週間)内に、来館しての返却が可能な方

※郵送での返却はできません

※初回の登録時には、住所・名前などの証明ができる本人確認書類(免許証・保険証など)をご持参ください

休室日/日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始

問合せ先/ ☎ 06-4392-8233 お電話で図書・DVDの予約も承ります



すこやか大阪 21



かしこく食べよう!ゲンキをつくろう!
6月は食育月間です
「バランスよく食べよう」



毎食「主食・主菜・副菜」をそろえて食べる等の、栄養バランスのとれた食事を実践しましょう。

主食…ごはん・パン・めんなどを使った料理
主に炭水化物の供給源

主菜…肉・魚・卵・大豆製品などを使った料理
主にたんぱく質・カルシウムの供給源

副菜…野菜・いも・きのこ・海藻などを使った料理
主にビタミン・ミネラルの供給源

果物・乳製品も忘れずに!

果物…主にビタミン・ミネラルの供給源

牛乳・乳製品…主にたんぱく質・カルシウムの供給源

栄養バランスをよくするために、何を食べてらよいか、わかりにくいという声をよく聞きます。

難しく考えずに、まずは【主食・主菜・副菜】をそろえることから始めましょう。そしていろいろな食品をまんべんなく食べるように心がけましょう。

こちらをご覧ください

[大阪市ホームページ]
「バランスよく食べよう」



あなたのお口は健口(けんこう)ですか?

歯周病は、気付かないうちに徐々に進行していくことから「沈黙の病気」とも言われており、成人期以降に歯を失う一番の原因になっています。また歯周病は、肥満、糖尿病、心疾患、脳梗塞など、全身の健康と関連があることが分かっています。

自分の歯でおいしく食べられることは人生の楽しみのひとつです。歯周病にならないようにするために、定期的に歯周病検診を受けましょう。

大阪市で受けることができる歯周病検診と相談

令和5年度歯周病検診(問診・口腔内検査)

対象 40・45・50・55・60・65・70歳

(昭和28・33・38・43・48・53・58年
1/1~12/31生まれ)の大阪市民

期間 令和5年4月1日~令和6年3月31日

費用 500円(生活保護世帯・市民税非課税世帯の方は無料)

場所 市内取扱歯科医療機関(要予約)

取扱医療機関



歯科健康相談(個別相談)

対象 大阪市民

費用 無料

日時・場所 区によって異なりますので、各区保健福祉センターへお問い合わせください。

各区保健福祉センターの電話番号は「4ケタ△△△△-9882」です



北区	6313	都島区	6882	福島区	6464	此花区	6466
中央区	6267	西区	6532	港区	6576	大正区	4394
天王寺区	6774	浪速区	6647	西淀川区	6478	淀川区	6308
東淀川区	4809	東成区	6977	生野区	6715	旭区	6957
城東区	6930	鶴見区	6915	阿倍野区	6622	住之江区	6682
住吉区	6694	東住吉区	4399	平野区	4302	西成区	6659

その他にも検診を実施しています!

胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診・子宮頸がん検診・乳がん検診・前立腺がん検診・骨粗しょう症検診

詳細はこちら



大阪市健康局健康づくり課(健康づくりグループ) ☎06-6208-9963

今月の自助具/簡単携帯スプーンホルダー

主な適応疾患・対象者 ▶ 手指の筋力低下や麻痺のある方

機能・特徴

- スプーンやフォークを自分の手で握ることができない人でも、保持して食事ができる。
- 外出先でレストランなどのスプーンやフォークが使い、違和感なく食事ができる。
- コンパクトでシンプルな形状なので持ち運びが苦にならない。
- 平たい柄のスプーンでも、丸い柄のスプーンでも使える。

使い方

- 輪ゴムの間にスプーンやフォークの柄の部分差し込み固定する。
- 針金の二つの輪に親指を通して保持することで食事ができる。



資料提供・問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎06-4981-8492(月・水・金 10:00~15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ▶



健康生活 応援グッズ

睡眠を快適に「マットレス」

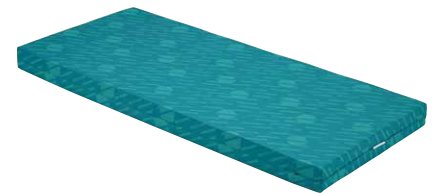
進化した床ずれ防止機能と看護・介護の役立つ機能を搭載



●マイクログライメイト ネクサス アイビー

皮膚局所の温度・湿度の上昇を抑える床ずれ防止機能。独自のエアセルで背上げ中の身体のずり落ちを軽減。角度・時間管理アシストなど多彩な機能で円滑な看護・介護ケア生み出します。

三重構造のウレタンフォームで効率的に体圧を分散



●UF-71 床ずれ予防マットレス

体圧分散を効率的に発揮するための三重構造です。三重構造のため、4面使用も可能です。

体重設定から体位変換、姿勢保持を全自動で行うエアマットレス



●ここちあ利楽フロー

独立した4つのエアセルで自動的に体位変換をおこなう「スモールフロー機能」や、背あげしたときの姿勢保持をサポートする「バックサポート機能」などを自動的に実行します。

問合せ

公益社団法人関西シルバースーパースervice協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場

〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15

大阪府社会福祉会館1階

☎06-6763-1480

http://kansil.jp

同心会が「研究奨励賞」「研究努力賞」を授与

同心会(会長 白澤政和:国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 教授)では、大阪市内で社会福祉の実践を行っている団体、グループ及び個人が自発的に研究活動を行い、その成果をまとめた「大阪市社会福祉研究第45号」の掲載論文から、特にその内容が優秀と認められたものに対して、3月29日(水)、大阪市社会福祉研修・情報センターにおいて「研究奨励賞」「研究努力賞」を授与しました。



研究奨励賞

◆路上生活の次はどこに行ったらよいか

向井 順子・舟橋 豊・野口 直樹・康 之利・江口 浩之

◆地域における住民による有償助け合い活動

～調査から地域の取り組みへ戦略的な区社協の実践～

井上 佳奈・角田 達哉・尾方 俊祐・坂本 篤子・小幡 真紀・蓬萊 美賀
矢野 晴枝・末長 秀教

研究努力賞

◆介護助手(アシスタントワーカー)の導入による介護現場の業務改善等に向けた取り組み～「介護の職場担い手創出事業」にかかるモデル事業実践報告～
砂田 知美・今村 加奈・辻 としみ・三浦 晶子

チラシが作りたい
パンフレットが作りたい
カタログが作りたい
…でも、どうやって作ったらいいの

それ、アド・エモンに
おまかせください

納得のご予算で

企画から取材・撮影・デザイン・
印刷・納品にいたるまで、あなたのイメージを
トータルでカタチにします。
下記まで気軽にご相談ください。

TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL:(06)6358-1010 FAX:(06)6358-1011 E-mail:info@ad-emon.com
<http://www.ad-emon.com>

(広告)

大阪市社会福祉研修・情報センター

メンタルヘルス相談

(オンラインでの相談も可能です)

疲れやすい、やる気が出ない、眠れない、
対人関係がうまくいかない…。仕事上の
ストレスなどから生じる悩みの相談窓口で
す。ご本人からだけでなく、同僚や上司の
方からのご相談も受け付けています。



相談・予約電話

秘密厳守 相談無料

ハローサンキュー

06-4392-8639

対象/大阪市内在住またはお勤めしている福祉職員

相談方法/電話・オンラインまたは来所

相談日時/毎週土曜日と第1・3水曜日

いずれも9:30～16:00

※予約に関する問い合わせは、平日でも受け付けています。

相談員/臨床心理士

詳しくはウェルおおさかホームページで▶

<https://wel-osaka.com/mentalhealth>



大阪市内の社会福祉施設を対象としたメンタルヘルス
に関する出張研修を行っています
当センターへご相談ください。(☎06-4392-8201)

CENTER INFORMATION

大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間 / 9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)

図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日) ※毎週金曜日19:00まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00

貸室ご利用の皆様へ

貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。
初めてご利用される方は、事前にお問合せください。

ウェルおおさか

利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。
電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。

☎06-4392-8200 FAX06-4392-8206

※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。
FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。

詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	全日
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400

交通 / ご来所には【大阪シティバス】【JR】【地下鉄】をご利用ください

●大阪シティバス

【長橋二丁目】バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

●JR大阪環状線・大和路線

【今宮】駅から徒歩約10分

●地下鉄・四つ橋線・御堂筋線

【花園町】駅(①・②出口)から徒歩約15分

【大国町】駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / (指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話 / ☎06-4392-8200(代表)

ファックス / FAX06-4392-8206

URL / https://www.wel-osaka.com

Facebookもチェック



【ウェルおおさか】に広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…▶大阪市社会福祉研修・情報センター

☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272 ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

人権啓発キャッチコピー

【テーマ】人権問題

認め合う 互いの違いと その個性

はるしげ あおい
春重 蒼衣さん(令和4年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 高校生の部 優秀賞)